～　夢ひとすじに　～

宮原中だより

学び　磨き　鍛え　羽ばたけ

令和７年度　第５号
令和７年８月２７日（水）発行
さいたま市立宮原中学校
ホームページアドレス
http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp

『日新公いろは歌』

校　長　　田　中　和　浩

フェリーから見る桜島

「赤とんぼ　筑波に雲も　なかりけり」　正岡子規
「染めあへぬ　尾のゆかしさよ　赤蜻蛉」正岡子規

私は、この夏休みに鹿児島を訪ねる機会がありました。鹿児島は本州の最南端にあり、薩摩半島と大隅半島に挟まれた錦江（きんこう）湾に桜島があることが有名です。また、古くは鎌倉時代から続く島津氏が、江戸時代より薩摩藩として治めていた国です。

この薩摩藩の礎（いしづえ）をつくった人物の一人が、島津忠良（しまづ　ただよし）（号は日新斉・じっしんさい）公と言われます。その日新公が、家臣教育のために作られたのが「日新公いろは歌」です。

い　いにしへの 道をきいても 唱えても　わが行（おこな）いに せずばかいなし
→昔の賢者の立派な教えや学問も、唱えるだけでは、役にたたない。実践し、実行することが、もっとも大事なことである。

ろ　楼(ろう)の上も はにぶの小屋(はにゅうのこや)も 住む人の　心にこそは 高きいやしき
→立派な御殿に住んでいようとも、粗末な小屋に住んでいようとも、それだけは人間の価値を判断できない。心のあり方によってこそ、真価が決まる。

は　はかなくも 明日の命を 頼むがな　今日も今日と 学びをばせで
→明日のことは誰にもわからない。勉学修行を明日に引き延ばし、もし明日、自分が亡くなってしまったらどうするのか。いま、この時を大切にするべきだ。

この「いろは歌」は、人間として、社会人として生きるべき道や、人の上に立つ者の心得、礼儀、謙虚さなどの教えを「いろは」の順に４７首の歌にまとめたものです。この教えが、薩摩藩の中で「実践」「節義（志を変えず、人として正しい道をかたく守ること）」「人間性の尊重」を重んじるきっかけとなりました。

「いろは歌」をよく読んでみると、現代のわれわれも心得としたい言葉が多くありましたのでご紹介します。

よ　善き悪しき 人の上にて 身を磨け　友は鏡と 成るものぞかし
→人は、自分の行いの善し悪しを知ることは難しいが、他人の行いの善悪は、目につくく。日頃より、友を観て、良いことはこれを見習い、悪いことは反省せよ。

せ　善（ぜん）に移り 誤れるをば 改めよ　義不義（ぎふぎ）は生まれ つかぬものなり
→善に移り、過ちは改めよ。元来、義不義は、生まれつきのものではない。心のありようで、義にも不義にもなる。悪いと気づいたら、すぐに改めよ。

出典：島津義弘 com「日新公いろは歌について」

桜島（さくらじま）について

桜島とは、錦江湾（きんこうわん）（鹿児島湾ともいう）に浮かぶ島で、現在も約 3,500 人の人が暮らしています。また、北岳・南岳の２つが合わさる複合火山で、いまでも年間約 200 回程度噴火を繰り返しているそうです。近年で最も大きな噴火は大正時代にあり、被災された方も多くありました。その規模は、溶岩の流出により桜島と大隅半島の間が陸続きになってしまうほどでした。

桜島で見られる溶岩